



薫 泉

学校の目標

社会の変化に自ら対応でき、豊かな心をもち、表現力豊かな国際人を目指し、次のような子どもを育成する。

・よく考え、進んで学習する子ども
・いつも元気で、じょうぶな子ども
・こころ豊かで、やさしい子ども

「小さな親切運動」の考え方

校長 井上 光広

三月、令和六年度のまとめに入っていきます。この一年間もいろいろなことがありましたが、保護者の皆様、地域の皆様、学校協力者の皆様には誠に世話になりました。ありがとうございます。

さて、「小さな親切運動」については十二月より学校サイト上でお知らせしてきましたが、年度末にあたり、薫泉紙上でもあらためて周知したいと思います。

日頃より本校や安方中学校の子ども達を見守ってくださっている「子ども安全ボランティア・スマイルネット」様のことは皆様よくご存じのことと思います。通学路赤コース・安方商店街の交差点付近を見守ってくださっている活動を、本校の卒業生であり、「小さな親切運動本部」副代表でもある小林和明様が偶然見かけ、十一月二十八日にスマイルネット様を「小さな親切実行章」として表彰されました。その後、スマイルネット代表の蔵方英明様（本校第三十四代PTA会長）を通して、学校にもご紹介いただき、「小さな親切運動」の理念をお伝えいただきました。

「小さな親切運動」の原点は、昭和三十八年三月、東京大学卒業式での茅誠治総長（「小さな親切運動本部初代代表」）の式辞にあります。小さな親切はなだれのようなものであると。何かのきっかけがあつて小さな雪（なだれの芽）が転がりだすと、それが次第に広がって大きななだれを引き起

こす。小さな親切運動も同じで、無名の誰かの何気ない小さな親切の行動をきっかけとして親切のなだれが起き、社会の隅々まで広がっていくだろう。勇気を出した一人が、小さな親切を行うことで、親切のなだれの芽が生じ、やがては社会の隅々まで、親切のなだれが埋めつくすに違いないという考え方です。

この茅先生の考えと同じようなことを、私は自分自身の大学生時代に社会で活躍している先輩から教えられたことがあります。伝教大師（最澄）の言葉で、「二隅を照らす 此れ則ち国宝なり」です。先輩はこう言いました。

「私たち一人一人は小さな存在かもしれない。しかし、社会のかたすみ、一隅に火を灯すようなことはできるはずだ。それを意識して社会貢献するのだ。君たちの点けた一灯は世界に広がり、必ずや大きな光となる。それが君たち青年の使命なのです。」

このことがきっかけとなり、私も一隅を照らす意識で教員生活を送ってきました。これを副代表の小林様に話したところ、その後、茅先生が昭和四十三年に書かれた著書を調べてくださり、「照干一隅国宝（一隅を照らすものは国宝なり）」という言葉が紹介されたと、学校までそのページのコピーを持ってきたくださいました。

人の社会はこのように幸福の輪 (Well-Being) が広がっていくものです。その実践経験を小学生時代に積んでおくことは、人生の大きな心の宝になるに違いありません。今、当番でもなんでもなく、自分自身の判断で「あいさつ大臣をやります」と朝のあいさつ運動に参加している子ども達がいいますが、この姿こそ小さな親切であり、一隅を照らす行動なのです。

【お知らせ】
・教員の異動について、今年度も三月中に発表になる予定です。二十日前後に文書を配布しますのでご確認ください。

三月の生活目標

一年間の成長をふりかえろう

生活指導部

本年度の自分を振り返る、大事な時期となりました。この一年間、どの子どもたちも様々なことを学習し、成長しました。「成長」と聞くと、何か特別なことができるようにならないといけないと考え、自信をなくしてしまう子どももいますが、きちんと課題に取り組み、時間を守るといった「当たり前」のことを続けられたことも素晴らしい点です。自分の成長は自分ではなかなか気付きませんので、ぜひご家庭でもお子さんの成長について、話し合ってみてください。前学年と比べ、どんなことができるようになったのか、どんなところが成長したのかを聞くことで、子どもは励まされ、自信をもち、安心して次の学年のスタートを切ることができるでしょう。

学校でも、子ども自身がこの一年間の成長を実感できるように、最後の一月を大切に指導していきます。

卒業式に向けて

六年生担任

卒業までわずかとなりましたが、六年生の子どもたちは元氣いっぱいに登校しています。心身ともに成長が見られ、一月末には、一年間を通して安方商店街の店舗様に御協力をいただき、「商店街の現状を聞き、自分たちにできることを考える」をコンセプトに、取材やプレゼンテーションを繰り返して学習してきた教科「おわたの未来づくり」のまとめとして、「商店街フェスティバル」を行うことができました。子どもたちは、それぞれの担当店舗の方と連携を重ねる中で、計画性をもつことの大切さや社会の厳しさなどを学ぶことができました。

卒業式では、証書授与の呼名の返事の後、卒業生が将来の夢や中学で頑張りたいことを宣言する場面があります。小学校生活最後の日に、保護者の皆様に子どもたちの立派な姿を見ていただけるよう、教職員一同、力を合わせ、最後まで指導していきます。